

## 【平群の薔薇（バラ）】

町の総合文化センター玄関前のバラ園には、たくさんのバラが皆さんを出迎えています。バラは、「小菊」と並び、わが町「平群町」を象徴する代表的な花として、大切に育てられています。色もとりどりで、赤、白、黄、オレンジ、ピンク等々、ジーっと眺めていると時間が経つのをつい忘れてしまうほどの美しさです。さて、バラの花言葉は、色ごとに意味を持っており、赤色のバラは「愛情」や「情熱」など強い感情や深い愛を象徴し、ロマンティックな場面でよく使われます。黄色のバラには「友情」「平和」「思いやり」などのポジティブな意味があり、オレンジ



のバラには「絆」「信頼」「元気」「誇り」と活力や温かさを感じさせる意味があります。そして、白いバラは「純潔」「深い尊敬」など清らかで誠実な印象を持つ花言葉が特徴です。最後にピンクのバラは、「上品」「幸福」「感謝」など、優しさや愛情を表す花言葉が多く、結婚式や特別な日の贈り物にぴったりだと言われています。

私も、「教育に対する尽きることのない愛情と情熱を込めるとともに、何より子どもたちに対し誠実に思いやりをもった教育の推進」をモットーに取り組んでまいります。

## 【令和7年度「平群町学校・園教育目標」紹介】

「笑顔でつながる平群の学び」のスローガンのもと、今年度も、具体的な取り組み内容を、「**HEGURI**」を頭文字にして構成しました。一部をご紹介します。

「H」は「Heartful」と題し、「豊かな心・健やかな心・しなやかな心の育成」を意味することとしました。その具体的な取組内容としては、「不登校支援の充実」や「子育て支援センターとの連携」、「教育相談の充実」、「家庭との円滑な連携」等が当てはまります。また、次の「E」は「Education」で、「わかる喜び・わかる自信・学ぶ力の育成」を意味し、具体的には「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な推進」、「言語活動の充実」等を当てはめました。このように、最後の「I」を「Idea」として「社会の変化に対応する力、未来を歩む力の育成、つまり、「SDGs 実現に向けた取組の推進」まで、6項目を目標設定しました。詳しくは、平群町公式ホームページから「教育委員会」にお入りいただき、「令和7年度 平群町の学校・園教育」をご参照ください。

## 【4月からの学校の様子】

4月当初、例年より長く咲いてくれた「サクラ」に見守られて、小中学校それぞれに新入生を迎え入れました。新しい学校、新しいクラス、新しい先生や仲間との出会いから2カ月が経ち、関係の深まりは順調に進んでいますか。不安は解消出来ていますか。学校生活が、楽しく充実したものであることを切に願っています。

5月に入ると、竜田川沿いの鯉のぼりが、爽やかな初夏の風にゆったりとたなびく姿はとても優雅で美しく、雄大という言葉がピッタリの光景でした。そして月末は、平群南小及び平群小の5年生が国立曽爾青少年自然の家にて体験学習に出かけてきました。10年以上前の事ですが、私は、この国立曽爾青少年自然の家で3年間勤務していました。ですので、曽爾の至る所の情景は、今も手に取るように蘇ってきます。天候があまり良くなく、とても寒かったことを聞きました。満天の星空を見ることが叶わなかったのはとても残念でしたが、是非また機会を見つけて、曽爾高原の「星空劇場」鑑賞に行ってみてくださいね。

また、平群中学校3年生が、5月最後の土曜日（5/29～/31）にかけて、沖縄県への修学旅行に行きました。



初日こそ大雨の為、平和学習におけるガマ体験が出来なかったのですが、翌日からは天気も回復し、沖縄の美しい海でのマリン体験を満喫することが出来たようです。帰校後の3年生に「どうや、楽しかったか?!」と尋ねると、すぐさま「めちゃくちゃ楽しかった!!」と、喜びと感動がたくさん詰まった返事を、どの子どもからも聞くことが出来ました。

体験に勝るものではありません。様々な体験を通して自身の感性を磨いていってもらいたいと思います。

## 【シリーズ：「学び」と「育成」に関するキーワード】

### 〈その1 「非認知能力（ひにんちのうりょく）」〉

今後、今の時代に生きる子どもたちに身につけさせたい「力」や、はぐくませたい「感性」等、シリーズでお伝えしていきます。

第1回目は「非認知能力」です。

あまり聞きなれない、また、「認知」という言葉のイメージが湧（わ）きにくいのではないかと思います。

① まずは、「認知能力」について説明します。認知能力とは、「勉強するときに使う力」のことです。例えば、

- ・ 計算する（数学の問題を解く力）
- ・ 読んで理解する（本や教科書の内容を理解する力）
- ・ 覚える（漢字や英単語を記憶する力）
- ・ 考える（問題を解決するために論理的に考える力）

いわゆる、学校の学習を通して身につけていく力（知識として身につけたり、使ったりする力）であり、テストの成績に関係したりする力です。

② 次に、「非認知能力」についての説明です、これは、「勉強だけではなくて、人生を豊かにする力」の事を意味します。例えば、

- ・ 物事をやり抜く力（部活動や習い事、様々なことに最後まであきらめずに頑張る力）
- ・ 協力する力（友達や仲間と協力して活動する際や場面で発揮する力）
- ・ 気持ちをコントロールする力（イライラした時も自分で落ち着かせて行動する力）
- ・ 前向きな気持ち（失敗しても「次は頑張る!」と思いなおす・思いかえる力）

つまり、非認知能力とは、テストの点数で測ることは出来ませんが、社会で成功するために、とても大切な力のことで、この力を備えていくことで、大人になって仕事をしたり他人（ひと）との関係を上手くつくっていったりすることに役立つなど、重要な要素が多くあります。

③ 両者の関係について

この二つは、相反（あいはん）するものでも、どちらか一方だけを重視するものではなく、両者をバランスよく育てることが重要です。互いに影響を及ぼし合いながら、個人の成長や成功に貢献していきます。

すなわち、どちらも成長するためには大切で、「勉強ができるだけ」でも、「努力するだけ」でも十分ではありません。この2つをバランスよく伸ばすことで、より充実した人生につながります。

◆ 例えば、スポーツ選手は、認知能力として「戦術を考えたり、ルールを覚えたり」する力を身につけます。そして非認知能力である「努力し続ける力、プレッシャーに負けない心」を併せて育てていき、この両方を使って試合で活躍しています。

◆ 学習の質を向上させるために！

認知能力が高い人は情報を早く処理できますが、非認知能力（例えば自己制御や忍耐力）がなければ集中力が続かず、学習の成果が十分に発揮されません。

◆ 社会的スキルの向上

いくら知識が豊富でも、コミュニケーション能力や協調性がなければ、良好な人間関係を築くのは難しく、せっかくの知識を生かせることにつながらないことが起こってしまいます。

いかがでしょうか、少しイメージ出来たでしょうか。この「非認知能力」を育てたり、高めたりする営みを小学校でも中学校でも、様々な活動や場面（日常の学校生活全般、行事等）や人とのふれあいの中で育てています。また、こども園での活動では、その基盤づくりに取り組んでいます。

この力は、決して学校やこども園だけではぐくまれるものではありません。家庭における営み全般において培われていきます。このように、両者をバランスよく育てていくことが何より求められます。この「非認知能力」という言葉の持つ意味を理解し、学校・園、家庭が連携・協力して育ててまいりましょう！！

※ 次のコーナーでも登場してきます。

## 【子どもたちへ伝えたいメッセージ コーナー】

### その1.「世界初のファッションショー 6月24日（火）大阪・関西万博で開催！！」

先日の6月1日（日）、朝の報道番組の中で取り上げられた数分間の紹介に衝撃を受けました。

皆さんは、ファッションデザイナー「平林 景（ひらばやしけい）さん」という方をご存じですか？

今、世界中から注目を集めているファッションデザイナーです。

タイトルの世界で初めてのファッションショーとは、「未来のおむつコレクション」という、「紙おむつ」のファッションショーなのです、主催するのは「一般社団法人日本福祉医療ファッション協会」で、その代表を務めておられるのが「平林 景」さんです。

平林さんは、ある日車椅子に乗ったご婦人がつぶやかれた「もうおシャレは諦（あきら）めた」の一言に対し「障がいの有無に関わらずオシャレを楽しんでほしい」という思いで、日々試行錯誤を繰り返されたそうです。そして、「日本障がい者ファッション協会」を設立し代表理事に就任、2022年9月には、あの世界最高峰のファッションショー「パリコレ（パリ・コレクション）」という場で、鮮やかな色の巻きスカートやモードなデザインのパンツを身にまとう車いすモデルのみのファッションショーを実現されました。

今回、「O-MU-TSU」のロゴで開催されるファッションショーには、国内にある大手おむつメーカー7社の協賛をはじめ、国内49団体からの後援も受けています。また、平林景さんの「X（旧 Twitter）」への投稿は、開催前にも関わらず2,400万インプレッションを記録するなど、とても大きな反響を呼んでいます。

私も、娘二人の乳児の頃や、ちょうど7年前に他界した母の晩年に「紙おむつ」を施しました。「おむつ」は人がしっかりと生きているという「証」に他ならないのです。

平林さんが提唱されている

**「障がいを抱えていても、排せつに悩みがあっても、誰もがオシャレを楽しめる世界へ！」**

の言葉に込められた思いと尊さを、みんなで共感しましょう！

## 【おわりに】

この写真をよくご覧になってください。バラの花の中心部に蜜を求めてハチが入り込んできているのがわかりますでしょうか？



一匹だけではなく、多くの種類のハチが飛んできては、一生懸命に蜜を吸っていました。新鮮でおいしいものは、昆虫にとっても同じで、生きていくために欠くことの出来ない大切な産物なんですね。

きっとバラは、このハチのような生き物のために、全力を尽くして花を開かせ、蜜を生産し提供しているのだと思います。

それを知り、ハチたちが必死で採取する。

互いに共存しあいながら生きていく営みは、太古の昔から繰り返されてきた「万物すべてにあてはまる不変の物語なのだろう」と改めて感じ入ったのでした。